

論文問題冊子

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は、2題で90分です。試験問題1～7のうち、2題を選択してください。
3. 会計学の指導教員を志望する場合は、問題6、7(会計学分野)の中から1題は選択してください。
4. 試験問題についての質問は、受けつけません。
5. 試験開始後ただちに解答用紙の中の受験番号記入欄に受験番号と、問題番号記入欄に問題番号を誤記のないように記入してください（氏名は記入しないでください）。
6. 解答用紙1枚につき、1題解答してください。1枚の解答用紙に複数の問題を解答した場合、無効になります。また、解答用紙には裏面もありますが、1題につき、解答用紙1枚で収めるようにしてください。
7. 解答は、日本語で行ってください。
8. 問題冊子・解答用紙に汚損等がある場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。

平成 31 年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 1

1962 年に出版された A.D. Chandler (チャンドラー) の有名な著書 *Strategy and Structure* の結論とその裏付けとなる研究の概要を紹介し、現在の企業経営に対するチャンドラーの研究の意義を論じなさい。

平成 31 年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 2

「生態系サービス」に関して、以下の問いに答えなさい。

1. 「生態系サービス」の定義およびその誕生の背景を説明しなさい。
2. ミレニアム生態系評価による四種類の「生態系サービス」とは何か、具体例を用いて説明しなさい。

平成 31 年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営学 問題番号 3

マス・マーケティングとセグメント・マーケティングの違いについて、具体的な商品事例を挙げて説明し、それぞれの戦略上のメリットとデメリットを論じなさい。

平成 31 年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 4

増田商事は海外から電子機器を輸入・販売して利益を得ている。海外の供給業者から運ばれた電子機器が輸送中に破損した可能性があるため、自社内で検査を行った。その結果、機器が破損している確率は40%であった。増田商事はこの機器を購入するか、返品するかを決定しなくてはならない。機器を購入する場合、破損していなかったら10000ドルの利益が得られ、破損していたら5000ドルの損失が生じる。機器を返品する場合、会社の利益には影響しない。増田商事は専門業者に依頼して機器が破損しているかどうかを検査するという選択肢がある。専門業者の検査によって正しい結果が得られる確率は80%である。増田商事が期待利益を最大化するように意思決定を行うとき、専門業者の検査によって得られる情報の価値を求めよ。

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 経営システム

問題番号 5

2つの変数 x, y のサンプルサイズ n の無作為抽出標本 $\{x_1, x_2, \dots, x_n; y_1, y_2, \dots, y_n\}$ があり、それから得られる5つの標本統計量を以下のように表すものとする。以下のすべての問題に答えなさい。

$$\bar{x} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n x_i \quad \bar{y} = \frac{1}{n} \sum_{i=1}^n y_i$$

$$S_{xy} = \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})(y_i - \bar{y}) \quad S_x^2 = \sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2 \quad S_y^2 = \sum_{i=1}^n (y_i - \bar{y})^2$$

1. 以下の問いに答えなさい。

1-1 サンプルサイズ n が十分大きいとき、 \bar{x} の確率分布は、どのような分布に近づくか、答えなさい。

1-2 「 x, y の母平均に差がない」という帰無仮説を、等分散の仮定の下で検定する場合の検定統計量を、上の標本統計量を適切に用いて表しなさい。また、「 x, y が対になったデータ」である場合の検定統計量を、上の標本統計量を適切に用いて表しなさい。

1-3 変数 x, y の標本相関係数 r_{xy} を、上の標本統計量を適切に用いて表しなさい。

1-4 下の回帰式 (1) を最小二乗推定したとする。

$$y_i = \beta_0 + \beta_1 x_i + \varepsilon_i \quad i = 1, \dots, n \quad (1)$$

β_1 の推定量、 $\hat{\beta}_1$ を、上の標本統計量を適切に用いて表しなさい。

1-5 回帰分析における決定係数 R^2 とは、何を表す統計量か、答えなさい。また、1-3の推定における決定係数を、上の標本統計量を適切に用いて表しなさい。

2. 変数 x, y について、無作為抽出による38個の観測値からなる標本 $\{x_1, x_2, \dots, x_{38}; y_1, y_2, \dots, y_{38}\}$ を得た。理論的には、上の (1) 式を推定すべきであったが、誤って、

$$x_i = \gamma_0 + \gamma_1 y_i + e_i \quad (2)$$

を最小二乗法で推定し、

$$x_i = \hat{\gamma}_0 + \hat{\gamma}_1 y_i + \hat{e}_i = 10.0 + 0.4 y_i + \hat{e}_i \quad \text{決定係数 } R^2 = 0.64$$

との推定結果を得た。以下の問いに答えなさい。

2-1 正しい推定式 (1) を最小二乗法で推定したときの決定係数はいくらか？また、 $\hat{\beta}_1$ の推定値はいくらか？導出の過程を簡潔に示して答えなさい。

2-2 x の偏差二乗和 $S_x^2 = \sum_{i=1}^{38} (x_i - \bar{x})^2 = 100$ であった。推定された係数 $\hat{\gamma}_1$ の t -値はいくらか？導出の過程を簡潔に示して答えなさい。

2-3 $\hat{\beta}_1$ の t -値は、 $\hat{\gamma}_1$ の t -値 と等しいことを簡潔に示しなさい。

平成 31 年 度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分 野 会計学 問 題 番 号 6

以下の問いに答えなさい。

- (1) 製造間接費を製品に配賦する手続きの意義と課題について説明しなさい。
- (2) 製造工程の特徴に応じ、どのような製造間接費の配賦基準を選択することができるか、具体例によりながら説明しなさい。

平成 31 年度

横浜国立大学大学院国際社会科学府入学試験問題

分野 会計学 問題番号 7

日本の会計基準を前提として、以下の問いに答えなさい。

- (1) 連結貸借対照表上の純資産に属する各項目の意味を説明しなさい。
- (2) 連結貸借対照表上の株主資本に属する各項目の意味を説明しなさい。
- (3) 株主資本を純資産に属する他の項目から区分する意義を、財務報告の目的にてらして説明しなさい。